

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	15-030	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Probability and predictors of treatment-seeking for substance use disorders in the U.S. アルコール依存 (乱用) 者/薬物依存 (乱用)者の受療行動を規定する要因		
執筆者		
Blanco C, Iza M, Rodríguez-Fernández JM, Baca-García E, Wang S, Olfson M.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2015 Apr 1;149:136-44. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2015.01.031.		
キーワード		PMID
受療行動、アルコール依存、薬物依存、薬物乱用		25725934
要 旨		
目的： アルコール依存 (乱用) /薬物依存 (乱用) (まとめて Substance use disorder: SUD)を有する者における受療割合およびその関連要因を明らかにすること。		
方法： 米国の第 2 次 National Epidemiologic study on Alcohol and Related Conditions (NESARC) に参加した 18 歳以上の 34,653 名のうち、アルコール乱用者 5,947 名、アルコール依存者 4,863 名、薬物乱用者 3,228 名、薬物依存者 1,062 名が対象。性・人種・教育歴人格障害、心身症等を説明変数とし、受療を目的変数とし、SUD 発症後の生涯受療率を算出。		
結果： SUD 罹患者の生涯受療割合は薬物依存者 90%、薬物乱用者 60%、アルコール依存者 54%、アルコール乱用者 16%であった。SUD 治療歴のある者は無い者と比較し、他の SUD 発症後の生涯受療率が高値であった。SUD 発症年齢が早いほど、調査年が古いほど、高学歴であるほど、生涯受療率が低値であった。人格障害、心身症等に関しては結果の一致をみなかった。		
結論： 米国における高い SUD 罹患率、および SUD がもたらす健康障害、経済への影響を考慮すると、SUD 罹患者を受療へ促す革新的な取り組みの開発が望まれる。		
コメント： 家族の SUD 歴、経済要因等も大きく受療行動に影響すると思われるが本論文では検討されていない。結果の解釈が難しい。		